様式７
「学校」部門

河川基金助成事業

「機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり」
報告書

助成番号：2020－7212-017

北海道帯広市立豊成小学校
校長　　　　　氏 名　高原　茂雄

2020 年度

様式　8

〔学校部門〕　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　［概要版報告書］

助成番号	助成事業名	学校名
2020-7212-017	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校
校長名	高原　茂雄	担当教諭名：小室　素子
過去の助成実績	なし　(あり)〔助成番号:2019-7212-021 助成事業名:機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり〕	
キーワード	命のつながり　6年間を通した学習　ｻﾞﾘｶﾞﾆ堆肥づくり　自然の活用	
対象児童生徒	高校生（　年　　名）　中学生（　年　　名）　小学生（1年　89名）	
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況：(なし)　子どもの水辺　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：機関庫の川の生き物に会いに行こう

ねらい　：全校「自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」
学年「機関庫の川に棲む生き物や自然と主体的にかかわる」

評価の観点：機関庫の川の生き物や自然と主体的にかかわる力・観察して感じたことを絵や文で表現する力

活動時期　：４月～１０月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（生活科）	各教科学習（　　）	学校行事	その他（　　　）	合計
上記の活動時間数	時間	１２時間	時間	時間	時間	１２時間

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	(外部高校)	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要	ボランティアである７０名ほどの高校生（帯広北高等学校）が，活動時に児童のリーダーとなり，生き物とのかかわり方，生き物の名前、安全指導の補助などをしていただいている。					

活動成果	発表形態			成果作品
	(学級単位)	学年単位	学校全体	・お礼の手紙として活動の感想を絵や文で表している。 ・観察記録カード（教室掲示）
	対外発表（　　　　　　　　　）			

安全対策に関する課題

・２００名近い児童生徒が川に入るため，高校の担当教諭と事前に安全確認をしっかり行うことが必要になる。

活動の成果と今後の課題・展開

・保護者の中にも「川は危ない。」という感覚があり，川での「遊び」の経験は極めて少ない。そのような中で，安全を見守りながら活動の手助けをしてくれる高校生や担当教員とともに，存分に川で活動し，水の生き物と出会ったり，川の流れを体感したりすることで，様々な感覚を磨くことができた。

・継続した取組となっていることで，学習のねらいを高校にも理解していただけるようになっている。教育関係への進路を考えている生徒を積極的に募集し，生徒への指導を事前に行ってからボランティア活動に臨んでくださっている。

・児童が捕まえた生き物を校内の水槽（川の水温に合わせている）で観察することは，児童の興味関心をさらに高めることにつなげることができた。

・川の学習をする前とした後の児童の変容をとらえることができるよう，評価について考える必要がある。

> 以上，2019 年度実績。
> 新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業及び分散登校（2020 年 2 月 27 日～5 月 31 日）のため、教育課程の変更が余儀なくされました。そのため、2020 年度 1 年生の活動を実施することはできませんでした。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動 系	川遊び	７月
			系		月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい

様式　8

〔学校部門〕　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　［概要版報告書］

助成番号	助成事業名	学校名
2020－7212-017	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校

校長名	高原　茂雄	担当教諭名	小室　素子
過去の助成実績	なし　あり（助成番号:2019-7212-021 助成事業名:機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり　）		
キーワード	命のつながり　６年間を通した学習　ｻﾞﾘｶﾞﾆ堆肥づくり　自然の活用		
対象児童生徒	高校生（　年　　名）　中学生（　年　　名）　小学生（２年　１２１名）		
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況	なし　子どもの水辺　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：生き物たんけんに出かけよう

ねらい　：全校「自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」
学年「機関庫の川に棲む生き物や自然と主体的にかかわり，飼育・観察を行う」

評価の観点：ルールや安全に気を付けて，周囲と協力しながら機関庫の川の生き物や自然と主体的にかかわる力，観察して感じたことを絵や文で表現する力

活動時期　：５月～11 月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（生活科）	各教科学習（　　）	学校行事	その他（　　　）	合計
上記の活動時間数	時間	１７時間	時間	時間	時間	１７時間

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要	ボランティアである７０名ほどの高校生（帯広北高等学校）が，活動時に児童のリーダーとなり，生き物とのかかわり方，生き物の名前、安全指導の補助などをしていただいている。					

活動成果	発表形態			成果作品
	学級単位	学年単位	学校全体	・お礼の手紙として活動の感想を絵や文で表している。 ・観察記録カード（教室掲示・交流）
	対外発表（お世話になった高校生）			

安全対策に関する課題

・２００名近い児童生徒が川に入るため，高校の担当教諭と事前に安全確認をしっかり行うことが必要になる。

活動の成果と今後の課題・展開

・安全を見守りながら活動の手助けをしてくれる高校生や担当教員とともに，存分に川で活動し，水の生き物と出会ったり，川の流れを体感したりすることで，川への愛着や「なぜ」「どうして」といった探究の糸口をつかむきっかけづくりができた。

・継続した取組となっていることで，学習のねらいを高校にも理解していただけるようになっている。教育関係への進路を考えている生徒を積極的に募集し

以上，2019 年度実績。
新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業及び分散登校（2020 年２月 27 日～5 月 31 日）のため，教育課程の変更が余儀なくされました。そのため，2020 年度２年生の活動については以下の通りに変更し，実施しました。
■各クラス２時間　■川で安全に学習するための約束を確認し，機関庫の川の生き物を探しに行った。
■生き物の採取後，観察したり，触ってみたりした。またウチダザリガニが外来種であることを知り，駆除をすることを確認した。→川の生き物に触れたり，水の流れを感じたりすることで「機関庫の川」への興味関心を高めることができたと考える。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動系	川遊び	７月
			系		月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい。

様式 8

〔学校部門〕　　〔概要版報告書〕

助成番号	助成事業名	学校名
2020－7212-017	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校

校長名	高原 茂雄	担当教諭名	小室 素子
過去の助成実績	なし　(あり)〔助成番号:2019-7212-021 助成事業名:機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり〕		
キーワード	命のつながり　6年間を通した学習　ｻﾞﾘｶﾞﾆ堆肥づくり　自然の活用		
対象児童生徒	高校生（ 年 名） 中学生（ 年 名） 小学生（3年 121名）		
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況	(なし)　子どもの水辺　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：機関庫の川と友だちになろう

ねらい　：全校「自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」

学年「調査活動から見えた課題について主体的に取り組み，発信することで，川とのかかわり方について考える」

評価の観点：川の現状を把握し，課題解決に向けて考える力・調査をまとめ，課題解決に向けて効果的に発信する力

活動時期　：５月～１月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（ ）	各教科学習（ ）	学校行事	その他（ ）	合計
上記の活動時間数	５２時間	時間	時間	時間	時間	５２時間

支援者等（複数記入可）

(保護者)	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	(専門家等)
(河川管理者)	(行政機関)（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		(企業)	(その他)

支援概要	・情報提供（十勝多自然ネット）　・ジオラマ水槽のメンテナンス等 ・グループ活動の補助【ライフジャケット貸与】（帯広NPO28 サポートセンター）

活動成果	発表形態			成果作品
	(学級単位)	学年単位	学校全体	・全校児童特に下級生に向けての啓発活動。 ・地域の方への課題提示。
	(対外発表)（ 地域の方　大学の先生 ）			

安全対策に関する課題

・特になし。

活動の成果と今後の課題・展開

・ザリガニをはじめとした水生生物だけでなく，川の周りの環境など様々な視点で課題設定ができるようにした。そのことによって，児童の興味関心や課題解決のための過程に多様さを見ることができた。

・児童の興味関心と課題意識向上を目的として，サケの稚魚とニホンザリガニの飼育をした。校舎内で常に魚などを観察することができるので，命のことや「機関庫の川」について，より考えられるようになった。

・コロナ禍における学習（授業）形態を模索した。これまで学級の枠を外し学年単位でグループをつくり行っていたものを，本年度は学級ごとの活動，しかも個人の課題解決活動とした。外部講師とは遠隔で繋がり，子どもたちに講話をしていただいたり、質問に答えていただいたりした。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	水質調査系	パックテスト	６月
			生物調査系	生き物と環境	９月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引きP.47の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい。

様式　8

〔学校部門〕　〔概要版報告書〕

助成番号	助成事業名		学校名
2020－7212-017	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校
校長名	高原　茂雄	担当教諭名	小室　素子
過去の助成実績	なし　あり（○）〔助成番号:2019-7212-021 助成事業名:機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり〕		
キーワード	命のつながり　６年間を通した学習　ｻﾞﾘｶﾞﾆ堆肥づくり　自然の活用		
対象児童生徒	高校生（　年　　名）　中学生（　年　　名）　小学生（4年　146 名）		
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況	なし（○）　子どもの水辺　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：機関庫の川の生き物に会いに行こう

ねらい　：全校「自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」
学年「水質の維持管理について，自分達の生活と関連付けて考える力」

評価の観点：調べたことから課題を見出し，自分達の生活と関連付けて考える力
得た情報を自分なりの言葉でまとめる力

活動時期　：６月～9月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（社会）	各教科学習（　　）	学校行事	その他（　　　）	合計
上記の活動時間数	時間	２０時間	時間	時間	時間	20 時間

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（○）（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他

支援概要	帯広市水道課の職員の方に来ていただき，浄水場や下水処理場のはたらきと水と生活のかかわりについて講話していただいている。顕微鏡で微生物を見せてくださったり，飲料水の味を確かめさせてくださったりする。

活動成果	発表形態			成果作品
	学級単位（○）	学年単位	学校全体	・新聞にまとめて交流する。
	対外発表（　　　　）			

安全対策に関する課題

・特になし。

活動の成果と今後の課題・展開

・コロナ禍により，浄水場の見学学習を実施することができなかった。
・札内川の取水口を見て，自分達の生活とのかかわりをより実感させる方法を考えさせたい。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	地理・現代社会 系	飲料水の供給（上水道）	７月
			系		月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい。

様式　8

〔学校部門〕　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔概要版報告書〕

助成番号	助成事業名	学校名
2020－7212-017	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校

校長名	高原　茂雄	担当教諭名	小室　素子
過去の助成実績	なし　あり〔助成番号：2019-7212-021 助成事業名：機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり　〕		
キーワード	命のつながり　６年間を通した学習　ｻﾞﾘｶﾞﾆ堆肥づくり　自然の活用		
対象児童生徒	高校生（　年　　名）　中学生（　年　　名）　小学生（5年　１３２名）		
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況	なし　子どもの水辺　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：ザリガニ堆肥の効果を検証しよう

ねらい　：全校「自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」
学年「予想や仮説，実験の結果を統計的にまとめ，命のつながり，環境とのつながりを感じる」

評価の観点：実験結果を統計的にまとめる力・実験結果をもとにザリガニ堆肥の効果的な活用法を考える力

活動時期　：４月～８月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（理科）	各教科学習（　　）	学校行事	その他（　　　）	合計
上記の活動時間数	１２時間	４時間	時間	時間	時間	１６時間

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等	関係団体（漁協、農協）等	企業	その他		

支援概要	・ザリガニ堆肥の効果や活用法を専門的な視点で教えていただいている。 ・十勝の農業の課題や川（水）とのかかわりについて教えていただいている。 （玉ねぎ農家中村さん，ごぼう農家和田さん，ますやパン杉山さん，川西農協，帯広市役所農政課）

活動成果	発表形態			成果作品
	学級単位	学年単位	学校全体	・検証結果を全校で共有し，学校農園での栽培活動に生かす。
	対外発表（　　　　　）			

安全対策に関する課題

・特になし。

活動の成果と今後の課題・展開

・ザリガ二堆肥の効果を知って，次年度取り組む堆肥作りへの意欲の向上を図ることができた。
・学習の目的，ねらいを達成させせることができるように，外部講師との打ち合わせをしっかり行う。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	地理・現代社会 系	その他	６月～12 月
			生物調査 系	生き物と環境	月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい。

様式 8

〔学校部門〕　　〔概要版報告書〕

助成番号	助成事業名	学校名
2020-7212-017	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校

校長名	高原　茂雄	担当教諭名	小室　素子
過去の助成実績	なし　あり〔助成番号：2019-7212-021 助成事業名：機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり〕		
キーワード	命のつながり　６年間を通した学習　ｻﾞﾘｶﾞﾆ堆肥づくり　自然の活用		
対象児童生徒	高校生（　年　　名）　中学生（　年　　名）　小学生（6年　132名）		
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況	なし　子どもの水辺　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：ザリガニ堆肥を作ろう

ねらい　：全校「自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」
学年「ザリガニ堆肥作りを通して，環境保全と命の循環という視点をもつ」

評価の観点：話の内容から目的に合ったものを精査し，活用する力。自然の力強さや命の尊さを感じ取る力。

活動時期　：７月～３月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（生活科）	各教科学習（　　）	学校行事	その他（　　　）	合計
上記の活動時間数	１時間	４時間	時間	時間	時間	5時間

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他

支援概要	・帯広北高等学校教諭より，ザリガニ堆肥作りの方法と管理の仕方等について助言をいただいている。

活動成果	発表形態			成果作品
	学級単位	学年単位	学校全体	・ザリガニ堆肥について，全校児童に向けて，テレビ放送にて説明した。
	対外発表（　　　　　　　　）			

安全対策に関する課題

・特になし。

活動の成果と今後の課題・展開

・外来種であるウチダザリガニの有効活用を６年生の学習に位置付けることは，本校の教育活動にとても大きな意味をもつ。子どもたちの命の尊さを考えさせ，責任と目的を実感することができる活動である。
・ザリガニ堆肥作りは，気温等の環境によって思うようにできないこともあり，帯広北高の理科担当教諭にアドバイスをいただきながら，進めている。
・農業を営む外部講師により，ザリガニ堆肥の有効性について話していただき，わずかではあるがその知識を得ることができた。
・コロナ禍でできることを模索。校内テレビ放送を活用し，６年生自身が「6年間の学習とザリガニ堆肥の繋がり」について，全校児童に向けて発表することができた。機関庫の川を通して身に付けたことを自分達の言葉で表現していくことができるよう，本年度の取組を継続，深化させていく。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動 系	その他	１１ 月
			地理・現代社会 系	その他	１２ 月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい。

様 式 11-1

アドバンス 活動報告書

（NO. 1）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212 －017
2.単元名	がっこうとともだち　ひとつぶのたねから　いきものとなかよし				
3.目標	自分達のせいかつとのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。				
4.実施学年 人数	第１学年 89名				
5.場所	機関庫の川				

6.単元構想（総時間数）

月	4～5	6～7	8～9	10～11	12	1	2
一学年・単元目標	**がっこうとともだち(2)** (こうていをたんけんしてみよう) 機関庫の川のまわりを観察し，季節によって変化する川や生き物の様子に気付かせる。川の学習への意欲付けとなるようにする。	**ひとつぶのたねから①(4)** (たねをまこう・せわをしよう) ザリガニ堆肥を混ぜた土を活用し，命が次につながることを実感させる。この後の川の学習でとったザリガニを堆肥化することとつながるようにする。	**いきものとなかよし(4)** (いきものにあいにいこう) 機関庫の川に棲む生き物とふれあい，その特徴や生態などに興味・関心をもつようにする。	**ひとつぶのたねから①(4)** (たねをまこう・せわをしよう) ザリガニ堆肥が混ざった土で栽培した枝豆を食べることで，命のつながりと感謝の気持ちをもって食べることの大切さを学ぶ。			
主な学習活動	【課題設定】 ○機関庫の川周辺を観察し，草花や生き物の様子を知る。 ○どんなことを知りたいか，事前に話し合い，活動の見通しをもつ。 【調査活動】 ◎冬から目覚めた植物や生物を観察することで，川の様子にも関心をもつ。 ◎捕まえた生き物や採った植物を記録する。 【まとめる】 ●調査で得た情報を観察カードにまとめて掲示し，お互いの視点を共有する。	【課題設定】 ○6年生が作ったザリガニ堆肥が入った土で枝豆を栽培する。 ○今後，自分達もザリガニ堆肥の駆除活動を行うことを知る。 【栽培活動】 ◎ザリガニの命が枝豆の成長に役立つことを体感するとともに，その命をしっかりとつなげられるように世話をする。	【課題設定】 ○川にはどんな生き物がいるのか。どんなところに棲んでいるのか。 ○安全に川にかかわるには，どうするべきか。 【調査活動】 ◎帯広北高の生徒たちに教えてもらいながら，川の生き物を捕まえたり，川の様子を観察したりする。 【まとめる】 ●川の学習で発見したり，気付いたりしたことを北高生のお礼の手紙として，絵や文で表現する。	【課題設定】 ○ザリガニ堆肥が，枝豆の成長を助け，自分達が食べることで栄養となり，命がつながっていることを知る。 【試食】 ◎枝豆をゆで，実際に食べることで，命のありがたさを感じ，日常の食につなげて考える。			
評価項目	○季節によって変化する川や生き物に興味・関心をもって学習計画を立てることができる。 ◎周囲と協力しながら，主体的に川や生き物とかかわろうとしている。 ●生き物や自然の様子を絵や文で表現することができる。 ●友達のよい視点を次に生かそうとしている。	○ザリガニ堆肥を使って栽培するという目的意識をもつことができている。 ◎目的を理解し，責任をもって世話をすることができる。 ◎成長の過程を観察し，変化に気付くことができる。	○機関庫の川に興味・関心をもち，どんな生き物を捕まえるか，進んで学習計画を立てることができる。 ◎周囲と協力しながら，主体的に川や生き物とかかわることができる。 ◎安全に配慮し，ルールを守って活動することができる。 ●川の学習で発見したことや気付いたことをお礼の手紙に絵や文で表現することができる。	○ザリガニ堆肥や水やりなど，枝豆の成長に必要なことについて振り返り，考えることができる。 ◎ザリガニ堆肥で育てた枝豆を食することで命のつながりを感じ，感謝の気持ちをもつことができる。			

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

様　式　11-2

アドバンス　活動報告書

（NO.　2）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212-　017

7.実際に行った単元構成　注）活動の様子を記述し，写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2

一学年

がっこうとともだち(2)

校舎裏を流れる機関庫の川で，川の周りの植物や生き物の様子を観察して，今後の活動に向けての意欲を高めることができた。

【課題設定】
〇春が来て，川の周りの様子がどのように変わったのかという目的をもち，観察した。
【調査活動】
〇川の周りの植物や生き物などを観察した。氷や雪の下で，春を待っていた植物や景色の変化に気付きながら積極的に活動していた。
【まとめる】
〇観察した様子を絵と文で表現した。形や色，におい，大きさなど，丁寧に観察したことをまとめることができた。

ひとつぶのたねから①(4)

ザリガニの駆除活動と栽培活動のつながりを意識しながら，ザリガニ堆肥が混ぜ込まれた土を活用して作物(枝豆)を栽培した。

【課題設定】
〇ザリガニ堆肥が混ぜ込まれた土で作物を栽培することを知ることで，川と栽培活動とのつながりを意識することができた。
【栽培活動】
〇アサガオの観察記録をとりながら，栽培活動を行った。

いきものとなかよし(4)

帯広北高の生徒と共に機関庫の川に入り，川に棲む生き物とふれあったり，川での活動を楽しんだりした。

【課題設定】
〇高校生とともに，人とのかかわり，川とのかかわりを学ぶという目的をもって活動に臨んだ。
【調査活動】
〇高校生一人に対し，3 人程度のグループに分かれて，水生生物の観察を行った。時間の経過とともに，子どもたちの積極性が増していった。
【まとめる】
〇一緒に活動した高校生に，感謝の気持ちと学んだことについて手紙を書くことで，まとめとした。

ひとつぶのたねから②(2)

ザリガニ堆肥を活用して栽培した枝豆を食べることで，命のつながりを実感し，自然(川)や生き物への感謝の気持ちをもつことができるようにした。

【課題設定】
〇高校生と捕獲したウチダザリガニが堆肥として枝豆の成長に活用されていることを確認することで，命のつながり，川とのかかわりを認識した。
【試食】
〇枝豆をゆでて，給食時間に食べた。命のつながりを感じながら，感謝の気持ちをもって食べていた。

・2019 年度実績を掲載しています。

・新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業及び分散登校（2020 年 2 月 27 日～5 月 31 日）のため，教育課程の変更が余儀なくされました。そのため，2020 年度 1 年生の活動を実施することはできませんでした。

川に入ることができなかった 1 年生。2 年生が捕ったザリガニと駆除前に対面。

8.成果と課題

〇帯広北高との継続した連携によって，高校の担当教諭とこの学習活動の目標について一層の共通理解が図られるようになった。
〇校舎裏に流れる川ということで，天気や季節によって変わる景色の変化を身近に感じることができた。
〇川に入る，川で生き物を探すといった経験の少ないまたは無い児童にとっても，川遊びの経験がある児童にとっても，好奇心や五感が刺激される活動となった。
〇ライフジャケットを準備し，着用できるようにする。

・コロナ禍でも実施できる方策を立てていく必要がある。

様　式　11-1

アドバンス　活動報告書

（NO.　1）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212　-017
2.単元名	おいしい野さいをそだてよう　　みんないきている				
3.目標	自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。				
4.実施学年　人数	第2学年　121名				
5.場所	機関庫の川				

6.単元構想（総時間数）　　17時間

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
二学年・単元目標		おいしい野さいをそだてよう①(3) ザリガニ堆肥を混ぜた土を活用し，一人一人が自分のすきな野菜を育てる。これから駆除するザリガニの命を活用しているという意識をもたせる。		みんないきている(10) ルールや安全を守りながら，生き物の観察を行う。捕れた魚やドジョウは，水槽で飼育し，観察する。外来種の駆除の目的について知ることを大切にする。		おいしい野さいをそだてよう②(4) 堆肥を活用して栽培した野さいを食べることで，命のつながりと感謝の気持ちをもって食べることの大切さを学ぶ。					
主な学習活動		【課題設定】 〇6年生が作ったザリガニ堆肥を混ぜた土で野菜作りをする。 〇ザリガニ駆除に向けて意識を高める。 【栽培活動】 ◎ザリガニの命が野菜の成長に役立つことを体感するとともに，その命をしっかりとつなげられるように野菜を育てる。		【課題設定】 〇機関庫の川には，どんな生き物がいるのか。どんなところに棲んでいるのか。 〇外来種の駆除を目的に活動計画を立てる。 【調査活動】 ◎帯広北高の生徒に助けてもらいながら，川の生き物を捕まえたり，川の様子を観察したりする。 ◎外来種(ウチダザリガニ)は駆除をする。 【まとめる】 ●川の学習で発見したことや気付いたことを北高生へのお礼の手紙として，絵や文で表現する。 ●捕った生き物を水槽で飼育し，観察の記録をつける。		【課題設定】 〇ザリガニ堆肥が，野菜の成長を助け，自分達が食べることで栄養になり，ザリガニの命がつながっていくことを知る。 【試食】 ◎野菜を実際に食べることで，命のありがたさを感じ，日常の食についてもつなげて考える。					
評価項目		〇ザリガニ堆肥を使った野菜作りに向けて，明確な目的意識をもつことができる。 〇駆除の目的を知ることができる。 ◎目的を理解し，責任をもって野菜を育てることができる。 ◎成長の過程を観察し，変化に気付き記録することができる。		〇機関庫の川の生き物に興味･関心をもって，学習の計画を立てることができる。 〇駆除の目的を理解することができる。 ◎北高生に補助をしてもらいつつ，主体的に活動することができる。 ◎安全に気を付け，目的をもって活動することができる。 ●自分の気付きを絵や文で表現することができる。 ●捕った生き物に興味･関心をもち，継続した観察をすることができる。		〇ザリガニ堆肥や，水やりなど，野菜の成長に必要なことについて振り返り，考えることができる。 〇命のつながりについて考えようとしている。 ◎ザリガニ堆肥を使った土で栽培した野菜を食べることで，命のつながりを感じ，感謝の気持ちをもつことができる。					

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

様　式　11-2

アドバンス　活動報告書

（NO.　2）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212‐　017

7.実際に行った単元構成　注）活動の様子を記述し，写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2

二学年

おいしい野さいをそだてよう①(3)（6～7月）

ザリガニ堆肥を混ぜ込んだ土を活用し，一人一人が自分のすきな野菜を育てた。(ミニトマト，ナス，シシトウ，ピーマン)

【課題設定】
〇ザリガニ堆肥が混ぜ込まれた土で野菜を栽培することを意識させることで，川と栽培活動とのつながりを感じることができた。
【栽培活動】
◎野菜の成長の様子を観察・記録しながら，ザリガニ堆肥の栄養を吸収しながら成長していることを実感することができた。

みんないきている(2)（8～9月）

クラスの友達とともに，機関庫の川で生き物の観察と捕獲を行った。捕まえた魚は，水槽に入れ観察した。(ヤマメ，フクドジョウ，ヤツメウナギ)

【課題設定】
〇川での活動を行う上でのルールやマナー，生き物の観察などを目的として活動に臨んだ。
【調査活動】
◎クラスの友達と一緒に水生生物の観察を行った。助成金で購入した観察道具を有効に使いながら活動した。
【まとめる】
●捕まえた生き物は，水槽に入れ，観察を継続させた。

おいしい野さいをそだてよう②(4)（9～10月）

ザリガニ堆肥を活用して，野菜を育てながら観察記録を書いた。育てた野菜は，各自持ち帰り，調理をし食べることで，命のつながりを実感した。

【課題設定】
〇ザリガニ堆肥を混ぜ込んだ土で栽培した野菜だということを意識しながら観察を行った。
【試食】
◎各家庭に持ち帰り，調理して食べることで，命のつながりを実感することができた。

・2019 年度の実績を記載しています。
・新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業及び分散登校（2020 年 2 月 27 日～5 月 31 日）のため，教育課程の変更が余儀なくされました。そのため，2020 年度 2 年生の活動は時数，内容を変更し，実施しました。

8.成果と課題

〇1 年前の活動が活きており，見つけた生き物の名前を言ったり，生き物がいそうなところをめがけて網を入れたりするような姿が見られた。

〇生き物の採取後，観察したり，触ってみたりした。またウチダザリガニが外来種であることを知り，駆除をすることを確認した。川の生き物に触れたり，水の流れを感じたりすることで「機関庫の川」への興味関心を高めることができたと考える。

様　式　11-1

アドバンス　活動報告書

（NO.　1）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212　-017
2.単元名	機関庫の川と友だち				
3.目標	自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。				
4.実施学年　人数	第３学年　121 名				
5.場所	機関庫の川・札内川				

6.単元構想（総時間数）　　５２時間

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2

三学年・単元目標

- 機関庫の川と友だち①（環境調査と課題設定・計画）
  - 環境調査をもとに，個人の活動計画を立てよう。
- 機関庫の川と友だち②（課題解決・啓発活動）
  - 自分の立てた計画を実行しよう。
- 機関庫の川と友だち/まとめ「川の未来を地域とともに考える」（機関庫の川の調査報告会）
  - 機関庫の川について学習したことをいろいろな人に知ってもらい，機関庫の川の未来について一緒に考えてもらおう。

主な学習活動

オリエンテーション（1）
・活動の内容を知る。

調査活動と課題設定（16）
・機関庫の川と札内川の調査
（水質調査・水生生物調査・流速調査・周辺環境の調査　等）
・調査結果をもとに現状を分析し，課題設定を行うとともに，個人の活動計画を立てる。

個人で立てた活動計画・啓発活動の実施（18）
・個人で立てた活動計画を実施し，新たな気付きや課題を見つける。
（外来種の駆除活動・清掃活動・環境保全の啓発活動等）

学習のまとめと報告会の実施（17）
・機関庫の川の学習をまとめ，保護者・地域や行政を対象に報告会を開く。
（自分達の活動報告と機関庫の川の問題について，課題の提言を行い，意見やアドバイスをもらって次年度に引き継ぐ。）

サケ，繁殖・飼育（通年）
・機関庫の川を再現したジオラマ水槽でサケの繁殖を行う。
・観察記録をとる。
※機関庫の川に生息しているサケのなかまなどを飼育することで川への関心を高め，児童の気付きにつながるよう環境を整える。

評価項目

・愛着のある川について，客観的に調査する方法があることを知ることができる。
・調査活動を通して，現状や課題を的確にとらえている。
・活動を通して気付いたことをもとに，学習の課題を設定することができる。

・観察を通して，生き物の生態や変化をとらえ，絵や文字を用いてまとめることができる。

・課題の解決策を自分なりの視点や方法で考えることができる。

・学習の成果と課題を的確にまとめ，課題解決を目的として，効果的に発信することができる。

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

様　式　11-2

アドバンス　活動報告書

（NO.　2）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212-　017

7.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2

三学年

機関庫の川と友だち①(17)（6月～8月）

機関庫の川を調査して課題を見つけ，解決に向けての計画を立てた。

機関庫の川と友だち②(18)（9月～10月）

１学期に立てた「未来につなげる」ための計画を実現させるための活動をグループごとに行った。

機関庫の川と友だち・まとめ(17)（12月～2月）

機関庫の川の調査結果と自分達の取組についてまとめ,他グループや地域の方,専門的な知識のある方に問題提起をしたり,自分達の考えを発表したりした。

【課題設定】
●機関庫の川に興味をもち,これからの活動に向けての意欲付けをすることができた。

【調査活動】
●機関庫の川で調査(水質調査,水生生物調査,等)を行い,清流であることを確認した。
●水質や生物だけでなく周辺環境にも目を向けながら活動をした。

【まとめ】
●機関庫の川の調査結果をもとに,機関庫川について考え,追究したいことやどのように行動していきたいか,次の学習の計画を立てた。

【課題設定】
●個々の課題により,アプローチの方法や実際の活動の内容について整理し,活動の意欲向上につなげた。

【活動】
●活動を通して自分達だけでできること,人の力が必要なことがあることに気付き,課題解決のための方法を身に付けながら活動することができた。
●今の環境を未来につなげるために自分達で考えた活動に取り組んだ。

【課題設定】
●環境維持のための活動を通して,感じたことわかったことをまとめ,全校児童や仲間たちに向けて発信するという目的をもつことができた。

【まとめ】
●自分達が取り組んだことやメッセージを効果的に伝えるための工夫をしながらまとめることができた。

【問題提起】
●全校児童に自分達の活動の報告や機関庫の川のこれからについて考えを提起することができた。

【通年活動】・機関庫の川を再現したジオラマ水槽でサケの稚魚とニホンザリガニの飼育を行った。
・サケの稚魚を放流したあとは,機関庫の川に棲むヤマメやフクドジョウ,ヤツメウナギなど,児童が捕獲してきた生き物を水槽に入れ,観察することを繰り返した。

8.成果と課題

・子どもたちの活動がより主体的な取組になるよう,子どもたちの気付きを大切にしながら学習を進めた。
・川の中の生き物のことやごみ拾いなどに子どもたちの興味や関心が偏らないよう単元計画を立てた。
・指導者の数など,子どもたちの多様な課題に応えることが難しく,一層の工夫や改善が必要である。
・コロナ禍の中でも，学習が滞ることのないよう，外部講師と遠隔で児童とつなげたり，学習の形態を工夫したりしながら取り組んだ。
・グループでの活動が取組の途中で行うことができなくなり，個の活動が中心となった。

様　式　11-1

アドバンス　活動報告書

（NO.　1）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212　－017
2.単元名	水はどこから				
3.目標	自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。				
4.実施学年　人数	第４学年　146 名				
5.場所	機関庫の川・浄水場・下水処理場・札内川				

6.単元構想（総時間数）　　２０時間

月	4	5	6	7	8	9	1０	1１	1２	1	2
四学年・単元目標			水はどこから① （郷土体験学習） 札内川浄水場・十勝川下水処理場について調べたことをまとめよう。（社会）		水はどこから② （みずのゆくえ） 機関庫の川に流れ込み，自分達の飲み水になっている札内川水域について調べよう。（社会）						
主な学習活動	※機関庫の川と札内川や十勝川の関係を意識させながら施設見学をし，より自分達の生活の水と川のつながりについて考えられるようにする。		施設見学・まとめ【8 時間】 ・札内川の浄水場と十勝川の下水処理場の施設見学を通して得た情報をまとめたり，発表したりする。 ・取水口や機関庫の川との合流地点を確認することで，「水はどこから」の学習に向けて，課題意識をもつ。 ※今年度，施設工事のため，浄水場の見学ができなかった。		水はどこから【12時間】 ・機関庫の川が流れ込む札内川の様子や地形から，その良質な水を作り出す要因を考えるとともに，それらの維持管理について，自らの生活と関連付けながら考える。						
評価項目			・施設見学やそこで働く人の話から，必要な情報をまとめ，表現している。 ・調べたことから課題を見い出し，自らの生活と関連付けて考えている。		・与えられた情報から，その原因や根拠を探究している。 ・恵まれた環境を理解し，地元に対する誇りと愛情をもち，その環境を維持していこうと考えている。						

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

様　式　11-2

アドバンス　活動報告書

（NO.　2）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212-　—017

7.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2

四学年

水はどこから②(12)

機関庫の川が流れ込む札内川や十勝側の様子や地形について学んだり，水のゆくえを考えたりすることで，身近な河川を大切にしたいという思いをもつことができた。

【課題設定】
・帯広のおいしく，良質な水がつくられる要因について，これまでの経験や前の学習から考え，課題を設定することができた。

【調べる・学ぶ】
・良質な水のおかげで，帯広の農業や加工業が発展していることに気付き，身近な川だけでなく，広く環境を守っていくことの大切さを理解することができた。

水はどこから①(8)

機関庫の川が流れ込む稲田浄水場のはたらきについて学んだり，と十勝川流域下水処理場を見学したりすることで，自分達の飲み水や生活とのつながりを学んだ。

【課題設定】
・生活の中の水と機関庫の川がどのようにかかわっているのか，学習の見通しをもつことができた。

【施設見学】
・施設見学を通して帯広の水道水のおいしさに気付き，そのもととなる機関庫の川や，自分達が出している生活排水について考えることができた。
・下水処理場を見学することによって，理解を深めることができた。

【まとめ】
・施設見学や社会科の学習を通して，わかったことや新たに気づいた課題について考え，今後の生活につなげていた。

8.成果と課題

・3 年生のときに総合的な学習の時間で学んだことが，4 年生の社会科の学習へつながり，子どもたちが生活の中の「川」や「水」についてより考えることができた。
・自分達の生活に使われている水と機関庫の川とのかかわりを知ることで，機関庫の川に対する思いや環境を守る責任をもとうとしていた。
・新型コロナウイルスの感染症の影響で，郷土体験学習の時期が変更になり，学習内容の入れ替えを行った。

様　式　11-1

アドバンス　活動報告書

（NO.　1）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212　－017
2.単元名	「受け継がれる生命」「十勝の農業を体験しよう」				
3.目標	自分達の生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。				
4.実施学年　人数	第５学年　132 名				
5.場所	機関庫の川・学校農園				

6.単元構想（総時間数）　16 時間（理科４時間　総合１２時間）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2

五学年・単元目標

受け継がれる生命
（インゲン豆の発芽・成長の条件）

・ザリガニ堆肥の効果を検証しよう。（理科）

十勝の農業を体験しよう
（ザリガニ堆肥の効果的な活用）

・プロから十勝の農業について学ぼう。（総合的な学習の時間）

主な学習活動

検証実験【4 時間】
・機関庫の川で駆除したザリガニで作ったたい肥の効果を検証し，データをまとめる。

野菜の栽培学習【12 時間】
・野菜の栽培方法を学ぶ中で，ザリガニ堆肥の効果的な活用方法について教えてもらう。
・農業と水やその他の環境とのかかわりについて学ぶ，その重要性や魅力についてまとめ，発表する。

評価項目

・予想や仮設，実験の結果や観察から，命の連続性を感じるとともに，学習の成果を統計的にまとめている。

・調べたことを生かし，自らの生活と関連付けて活用している。
・地元の環境や産業に対する誇りと愛情をもち，そのよさや課題と目的をもって発信することができる。

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

様　式　11-2

アドバンス　活動報告書

（NO.　2）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212-　―017

7.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2

五学年

受け継がれる生命(4)（5月～6月）

インゲン豆の発芽実験を活用して，ザリガニ堆肥の効果検証実験を行った。明らかにザリガニ堆肥を使ったインゲンの方がよく成長したことで，ザリガニ堆肥の効果が立証された。

【課題設定】
●これまでに駆除してきたザリガニの命がどのようにつながれていくのかを意識しながら活動することができた。

【検証実験】
●インゲン豆の発芽実験と並行させながら，「堆肥あり」と「堆肥なし」の成長の様子を比較し，堆肥の効果を立証することができた。

【まとめ】
●発芽実験の結果をまとめる中で，堆肥の効果も一緒にまとめることができた。葉の数・色，茎の太さ，実の付き方など，いずれも大きな違いが見られ，ザリガニ堆肥が植物の成長に効果があることを明らかにすることができた。

十勝の農業を体験しよう(12)（7月～8月）

JA かわにし青年部や近隣の農家の方々を講師に，ザリガニ堆肥を入れた土で野菜を栽培することについて教えていただいた。十勝の基幹産業である農業と水とのかかわりについても学んだ。

【課題設定】
●かわにし農協青年部の方々やごぼう農家の方に，ザリガニ堆肥の効果的な活用方法を教わり，栽培活動への意欲につなげた。

【栽培活動】
●ザリガニ堆肥を使って野菜の栽培を行った。(ピーマン，ミニトマト，ジャガイモ，バジル等)

【まとめ】
●収穫をした野菜を使ったピザを外部講師に作り方を教えてもらいながら，作った。ピザ生地の小麦やチーズも十勝産のものを使用し，地産地消のよさについて学んだ。

8.成果と課題

・検証実験の結果から，自分達が行ったザリガニの駆除活動は，意味のある活動であることを知ることができた。命を無駄にはせはず，その命をつなぐ活動の意義への理解を深めた。
・ザリガニ堆肥を混ぜ込んだ教材園で栽培した野菜を食べることで，命や川とのつながりを実感することができた。
・1 年生から積み重ねた学習を生かした取組であることから，実際に川に行くことがない。「川での活動」をどのように位置付けるか課題である。
・ザリガニ堆肥の有効利用を地域に発信するなど，学習したことを広げ深めるための工夫ができないか考えたい。

様 式 11-1

アドバンス 活動報告書

（NO. 1）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分対Tの生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212 -017
2.単元名	生物どうしのつながり方 働くことについて				
3.目標	自分対Tの生活とのつながりを実感し，この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。				
4.実施学年 人数	第６学年 132名				
5.場所	機関庫の川 スマイルホール（多目的教室）				

6.単元構想（総時間数） ５時間（理科４時間 総合１時間）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
○学年・単元目標							「生物どうしのつながり」（食べ物を通した生物のつながり） ・ザリガニ堆肥を作ろう（理科）		「働くことについて」（働く人の話から） ・こだわりの土作りの話から命のつながりを考えよう。（総合）		
主な学習活動							【検証実験】(4) ・機関庫の川で駆除したザリガニでザリガニ堆肥を作る。		【講話】(1) ・有機農家の「こだわりの土作り」の話を聴き，ザリガニ堆肥の有効性を学び，命のつながりについて考える。		
評価項目							・目的や課題を明らかにしながら，協同的かつ主体的に活動している。		・話の内容から，自分の目的や活動に合ったものを選び，活用している。		

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

様 式 11-2

アドバンス　活動報告書

（NO.　2）

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2020-7212-　-017

7.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2

六学年

生物どうしのつながり(4)

働くことについて(1)

1～3 年生が駆除したウチダザリガニを堆肥にし，命のつながりを実感することができた。

近隣で，「こだわりの農業」を営む方にザリガニ堆肥の効果や有効性についてお話していただいた。聴いた話を通して，自分達の活動の意義を確認することができた。

【課題設定】
●駆除したザリガニを堆肥にすることの意味やこれまでの河川学習とのつながりを確認した。

【堆肥作り】
●機関庫の川に棲んでいたウチダザリガニを材料とした堆肥を作った。

【課題設定・講義】
●近隣の農家の方に堆肥の有効性について教えていただくことで，ザリガニの命を奪うことに抵抗感や罪悪感をもっている子どもたちが活動の意義について考えることができた。

【まとめる】
●講義の内容を整理し，感想を書くことで，命に向き合う気持ちを整理したり，再び地域の自然環境について考えたりした。

【引継ぎ】
●全校放送で，自分達が作ったザリガニ堆肥について説明したり，6 年間を通した活動の意義を伝えたりした。

8.成果と課題

・6 年生全員でザリガニ堆肥作りをすることで，一人ひとりが命のことだけでなく，環境保全についてこれまで以上に考えを深めることができた。

・「こだわりの農業」を営む農家の方が，ザリガニ堆肥と同様な作用を与えるものを使っているというお話は，説得力がある。事前の打ち合わせにより，学習の目標を伝えることは重要なことである。

様式 13　<学校部門>

【助成番号】	【助成事業名】	【学校名・学校長氏名】
（2020-7212-017）	（機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり）	（帯広市立豊成小学校　校長：高原茂雄）

2年生「みんな生きている」

ザリガニのオスとメスの見分け方を学んだり，大きなカエル(エゾアカガエル)にびっくりしたり･･･。

観察の時間も川に入っている時間もとても楽しく充実したものでした。

触ってみようかな･･･
こわいな･･･
大丈夫！触ってみよう！

3年生「機関庫の川と友だち」

もっともっと機関庫の川のことが知りたくなります。五感をはたらかせてたくさんのことを吸収する様子が見られます。

様式 13　<学校部門>

【助成番号】	【助成事業名】	【学校名・学校長氏名】
（2020-7212-017）	（機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり）	（帯広市立豊成小学校　校長：高原茂雄）

様式 13　＜学校部門＞

【助成番号】	【助成事業名】	【学校名・学校長氏名】
（2020-7212-017）	（機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり）	（帯広市立豊成小学校　校長：高原茂雄）

4年生「水はどこから」

３年生のときの川の学習を思い出しながら，お話を聞きます。すると，聞きたいことがたくさん湧いてくるようです。

市役所の水道課の方が来て下さって，帯広市の水道の水が，どれだけ安全で美味しいのかを教えて下さいました。さらに，その水がすぐそばを流れる札内川からひいていること，学校裏の機関庫の川が流れ込んでいることを教わり，自分達の生活とのつながりを意識することができました。

5 年生「十勝の農業体験（ザリガニ堆肥の効果的活用）」

ザリガニ堆肥の効果をインゲン豆の成長の様子を見て検証します。

ザリガニ堆肥を入れた畑の恵みをピザに。

様式 13　＜学校部門＞

【助成番号】	【助成事業名】	【学校名・学校長氏名】
（2020-7212-017）	（機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり）	（帯広市立豊成小学校　校長：高原茂雄）

6年生「生物どうしのつながり」

今年度駆除したすべてのウチダザリガニ。冷凍庫で保存しておきました。

堆肥を作るためには，いくつかの工程があります。それらの工程を経るたびに，これまでの川の学習の思い出話が溢れてきます。

６年間の河川学習のまとめとも言えるザリガニ堆肥作り。これまでに学んできたことをしっかり振り返ってから堆肥作りに臨みます。

ザリガニ堆肥を作るには，ザリガニを細かく砕かなくてはなりません。その作業過程に抵抗のある子どもたちも少なくありませんが，土作りのプロにお話をして頂き，その有効性を教えて頂くことで，その抵抗感が和らぎ，積極的に作業できるようになります。

学校の畑に馴染むよう,校庭の落ち葉も堆肥の中に。